

国際化進む中国農業への視座

——食料品貿易の分析を中心に——

高橋五郎

一 中国食料問題

——固定観念からの脱却を

中国の食糧需給構造は穀物を直接消費する農村型と穀物を加工もしくは飼料消費・工業消費を経て、間接的に消費する都市型とに分かれつつある。一方で、人口一人当たりカロリー摂取量は増加期から緩やかな減少期に差し掛かっている¹⁾と見ることができ、人口増加が続くにしても、長期的には著しい高齢化社会がおとずれ、一人当たり消費量は減少する見通しである。その結果、今後、中国の食糧需要量が大きく増加することはないであろう。二〇〇〇年以降、中国の食糧生産量は減少しており、価格の上昇（都市部の



○四年一月の対前年同月比価格は食品一〇七・一、食糧一三・九、肉類及び加工品一一四・五、卵一二六・一。この傾向は○三年夏以降から起きた。農村部も同様。『中国統計年鑑』が示すように二〇〇三年は四億三〇〇〇万トンと、九年を七〇〇〇万トン程度下回ったが、公的に、かつ正確に把握できない非公式なたちで、相当量の備蓄があり輸入能力の拡大とあわせ、供給量に不安はなく、需給均衡は維持できるとみられる。ただし、政府や業界筋の一部には、二〇〇五年には、食糧需給の逼迫が顕在化しだすかもしれないという説もある（FoodChina.com, 2003, 10, 29, 30）。もちろんこのような見方を無視することはできない。

確かに食糧の国内生産量は減少しており、農地転用や担い手の減少、価格低迷、環境破壊、自然災害、農地の砂漠

化、農業用水不足、など複雑な原因が絡み合って、不安を醸成していることも事実である。しかしこれらの原因のほとんどは、農業生産基盤の整備が著しく立ち遅れている上に、人為的な問題が重なって生じたものであり、現政権誕生以来進められている農業投資の拡大や農業税の廃止策など、農民経済の振興策が実効を示すようになれば、縮小する性格のものである。参考までというと、二〇〇四年の食糧生産量は四年ぶりに増加に転じた。

灌漑施設整備と土地改良を沿岸部から内陸部にまで拡大するだけでも、要素生産性は大きく向上するはずである。これに品種改良や輸送保管施設の整備、流通機構の改善を加えるならば、生産量は少なく見積もっても五〇〇〇万トンは増える（鼠害、腐敗、保管などの問題から、中国の食糧は毎年五〇〇〇万トンのロスがあるといわれている）。中国の食糧需要は年間約五億トンといわれているから、現在の生産量四億三〇〇〇万トンにこれを加えれば、数字の上での輸入必要量は減るであろう。

むしろ、中国はやがて巨大な食糧生産を背景に需給を安定させ、やがてさまざまな食料加工技術や伝統的な中国の食文化をもとに、世界でもまれな食品・食料輸出大国になるという仮定をおく方が現実的であると思う。もし、食糧不安があるとすれば、これらの付加価値の高い食品・食料輸出は不可能であるが、現実を見れば、すでにそれは安定

期を迎えているといえるのである。この背景にはWTO加盟以後、中国が積極的な農産物・食品貿易の国際化を進め、都市部住民を中心に「食卓の世界化」という開放的雰囲気を受け容れはじめた大きな変化がある。つまり、中国はいま、まさに食文化の変化という時代的变化の過程にあるといえよう。

そしてその中身は、小麦の近代的消費利用、大豆の大量消費、乳製品と牛肉消費の増加であり、いわば欧米化の過程を歩んでいるということである。とくに、後二者は飼料穀物多消費型であるという点である。現在のところ、乳牛の飼料は牧草中心である場合が多く飼料穀物の需要は顕在化していない。肥育牛の場合も配合飼料化は立ち遅れている。言い方を換えれば、今後飼料穀物の需要は増加するにちがいないということである。食文化の変化のもう一つに、中国料理に深い関係のある食用油の変化がある。現在、中国では大豆油の需要が急増し、これが大豆の輸入量を増やし、二〇〇三年には一八〇〇万トンに達し、今後二、三年間のうちには二二〇〇万トンに増える見通しである。

このように、食文化の変化は中国人の食卓に上がる食料自体や加工状態の変化をもたらし、食糧の輸入を増やしあるいは代替的に輸入すべき食料の形質や形状を多様化する可能性をもたらしている。一方で、輸出に向けられる食料や食品も量的・品目的に増加する傾向にある。

本稿は、こうした現状を踏まえ、中国の食品・食材関連品の貿易が大きな発展を遂げている点を実証的にみようとするとするものである。そしてそれを通じて、中国の食料問題について、単に食料の不足、過剰といった古い見方がほとんど意味をもたなくなってきた³⁾あり、そこからの脱却の必要性を説こうとするものである。

二 有数の食料品貿易国家

表1は「生きている動物」を含むあらゆる食料を取り上げ、中国の貿易と世界におけるその地位を、一九九二年から二〇〇二年までの動きとして整理したものである。ここで使ったデータはSITC (Standard International Trade Classification、国連標準貿易分類) の Rev. 3 (一九八八年から現在) である。

ここではまず、一九九〇年代以降、中国の食糧生産は安定的な増加傾向を歩むことになること、そしてこれを背景に、食料貿易は徐々に世界有数の地位を占めるようになっていくことを示す。

表1の起点である一九九二年の世界食料輸出額は二六八七億ドルであるが、それ以降、三三九五億ドルに達した二〇〇二年まで、かなり増減しながら推移する。九四年から九六年までは増加したが、九七年から二〇〇〇年まで減少、

以降増加という動きである。とくに九七年から九九年までの落ち込み幅には大きいものがあった。いうまでもなく、アジア通貨危機の影響である。この危機によって、アジアの多くの国の人びとの可処分所得は大きく減少したが、そのおろしを受けて食料貿易も減少した。その後二〇〇一年から回復基調をみせるものの、その絶対水準は九五、九六年をはるかに下回ったままである。

次に、中国の輸出はどうか。世界全体と基本的な動きは同様であるが、顕著な減少をみたのは九九年だけであり、回復も早く、二〇〇〇年からの年増加率も高い。こうした増加基調の背景には、九四年の人民元為替相場の統一と大幅な切り下げが影響した可能性もある。穀物生産量は九四年、前年を一〇〇〇万トン下回り四億四五〇〇万トンに落ち込んだが、九五、九六年と増産、九六年には史上初の五億トンを実現した。この両方があいまって、輸出の増加をみたのではないか。

この点は同表中に示す、世界輸出額に占める中国の順位の推移にも反映されている。すでに中国の世界食料輸出に占める地位は高く、一九九〇年代には全世界のうち一〇番目程度に達していた。九六年から九八年までその地位はやや低下するが、九九年以降は輸出の増加を背景に上昇をみせ、二〇〇〇年以降は世界全体で八位となった。これを世界全体に占める構成比という点から見ると、九〇年代の中国はおおむ

ね三%程度で推移してきた。そして二〇〇〇年代になると四%程度になり、世界的地位の上昇をみせ始めるのである。

さて、比較的多くの内外の研究者やマスコミは中国の食料事情を悲観的に眺めていたが、実はすでに一〇年以上も前から中国の食料事情は大きく好転していた。にもかかわらずこうした見方が主流を占めていたのは、国際食糧メジャーや農業ロビー活動によって利益を得る組織が発する食糧危機説に惑わされたか、農村の貧困や農村経済の立ち遅れを中国の食料生産力の弱さと同一視したかのいずれかと推測される⁵⁾。

農地の転用や耕作放棄による耕地面積の減少、黄土高原や草原地帯等を中心とする砂漠化の進展は予想以上に進んでいる。砂漠化や耕地の塩害は可視的に見て深刻な状態にあり、誰が見ても危機的な感覚に陥らざるを得ない。しかも多くの農民は自由意志による選択として、あるいは意欲があるから農業生産に従事しているわけではなく、他に生きる道がないので仕方なく土地にしがみついているにすぎない。耕地の減少や劣悪化は自然的条件の変化の影響による場合もあるが、多くは人為的、私的利益追求型の単線的工業化路線とその政策的負荷に迫るところが大きいように思う。地域的な風土の差を考慮した持続可能な農業構造（生産要素と適正技術の組み合わせ、農地所有の管理と解放）の改革と経営者感覚をもって農業生産に参加する農民の育成が

課題であるが、この実現は中国農業の危機を回避する基本的な手段となる。そして、それは可能である、というのが筆者の基本的立場であり、内容を先入観で染まった見方で悲観的に結論付ける方法を排したい理由でもある。

次に輸入も漸増傾向にあるが、金額的には輸出の三分の一程度で推移している。輸出額の増加傾向に比較すれば、輸入額はそれほどではなく、世界順位も一五位程度である。しかし徐々に、ランクが上がる兆候はある。それは輸入額がやや増える可能性を見せているからである。二〇〇〇年以降、輸入額は五〇億ドル程度で、九〇年代初期と比べるとかなりの数字になってきている。

三 上昇する貿易特化係数

さて表2は輸出と輸入両面から中国の食料貿易の推移と合わせて、対世界の貿易特化係数の動きを整理したものである。一瞥しただけであるが、中国の対世界の食料貿易は大幅な黒字基調を続けており、その結果貿易特化係数は九五、九六年を除くと〇・四台を維持して、やがて〇・五をうかがう形勢となっている。貿易特化係数が〇・五というのは黒字額が輸入額の二倍ということであり輸出業者の利益は大きい。言い換えると、中国の食料品貿易は国際的に比較優位にあると見ていいということもある。明らかに、もは

や中国は食料品がなくて困るといふ段階を構造的に超えたのである。

なお、貿易方式の観点から見ると、中国の食料輸出は一般貿易方式が圧倒的に多く、原料の国内調達比率が高く(八〇%以上)、それだけ国内産農産品が幅広く、かつ比較的内容に調達されていることがうかがえる。

貿易特化係数の動きを見ると、傾向的には最近になるにしたがって上昇している。この点は、いうまでもなく中国の食料輸出が国際競争力を高めていることを示すものである。その背景には商品の価格、その多様性や品質面での地位の上昇という、貿易財一般に妥当する競争力の向上がある。また中国産の食料品輸出を促す別の要因、これは構造的な性格の要因であるが、華僑・華人の地球的規模での存在に伴う中国食文化の普及という側面もあり、輸出を後押しする要因の一つともなっていると考えられる。

華僑・華人は移住先でも箸を使い、日常的に中華料理を中国式に食べる。華南地方出身が多数を占める在外華僑・華人にとって、干しなまこ、干しえび、ビーフン、しいたけ、筍、小豆、中華麺、中華醬油、調味料、香辛料、もち米、コメ、小麦粉、中国茶などは必需品である。これらは程度はそれぞれ異なるが加工されて輸出され、現地の小売の店頭に並ぶのである。

四 食料品貿易の相手国

表3は表2を原則として、上位一〇か国に絞って国別に示したものである。中国の主要な食料品貿易相手国はどこか、そして相手国自体の時間的変動の有無を知ることがこの表を作った趣旨である。同表には輸出と輸入の両方が上位にランクされている場合、網掛けによってそれを示している。同表に掲載した国は上位なので数的に少ないが、実際の貿易相手国は地球上の非常に多くに及んでいる。

まず一九九二年、輸出相手国の最上位は日本で約二二億ドル、次いで香港一六億ドル、三位が韓国七億ドルなどとなっている。輸入先の最上位国はカナダであり九億ドル、二位アメリカ六億ドル、三位ペルー三億ドルなどとなっている。これら以外の国も含め輸出・輸入の両方が上位にランクされている国は日本、香港、ロシア、アメリカである。上位にランクされる対香港輸出の場合、香港が輸出目的で加工する食料品加工原料を輸出する場合と、香港経由で他の国へ輸出する場合とがある。東南アジア諸国のスーパー食品売り場の瓶詰め・缶詰類のほとんどは香港または中国産であるが、香港製品の場合、加工原料の生産は直接行われないので、大部分は中国から輸入された加工原料が使われていると考えてよい。同様に、香港経由で中国が農産物また

は加工原料や製品を輸入する場合もある。香港の農産物輸入関税はゼロなので、中国国内の加工場や販売市場までの物流上のメリットがあれば、香港経由の方が得策である。

九三年以降について、輸出、輸入別の国別動向を概観すると大きな変化は見られない。主要な輸出相手国・地域が日本、香港、韓国、ロシア、アメリカ、ドイツ、シンガポール、マレーシア、北朝鮮、オランダ、主要な輸入国・地域がアメリカ、カナダ、ロシア、ブラジル、オーストラリア、ペルー、タイ、日本、フランスなどであることに変化はなく、ほぼ固定的である。ただし九八年以降、輸入相手国の最上位国にロシアがランクされるようになったことが注目されるが、これは水産物及び同加工品の輸入が、中国の魚介類消費の急増を反映して増えたことによる。今後はこの方面の輸入が増えつづける可能性が濃厚で、国際水産物価格の慢性的上昇要因ともなっている。

以上のように表3をやや詳しく見る過程で、九二年以降二〇〇二年までの貿易相手国・地域には大きく二つの類型があることが分かる。「SITCコード0」というかなり広い範囲の食料品ではあるが、この貿易財の範疇において、中国と水平貿易関係にある国・地域（日本、香港、ロシア、アメリカ）、そしてそうした関係の弱い国・地域という二つの類型である。

しかし内容は一樣とはいえない。中国から見ても、このう

ち日本との間ではうなぎ・野菜・山菜・プロイラー・大豆・落花生などの輸出、水産物（二次産品）・同加工製品の輸入、アメリカとの間では加工製品輸出、穀物を主とする農産物の輸入、ロシアとの間では穀物の輸出、水産物の輸入、という内容が際立っている。これら以外の国にも、規模が小さくても同様のパターンを内容に持つ貿易関係があるが、その他の国・地域の場合は、輸入ないしは輸出の一方的な関係にある。

いずれにしても、中国の食料品貿易は対象国・地域、規模面で増加傾向を続けていることは間違いなく、中国にとつては貿易相手国や量的な規模を増やすことで、食料の安全保障の精度を高めつつあるといえる。中国はすでに食料の完全自給策を事実上放棄しているが、市場経済の進展とその国際化は貿易の理論的原則への適合性、対応性を強めることでもあり、それは当然のことでもある。自給率は市場経済の進展とその国際化に反比例するのであり、こうした側面を無視して、中国の食料危機を叫ぶとすれば、中国に対して食料生産部門を通常の商品経済から切り離して、別会計にせよというに等しいことになる。

五 増加する穀物輸出

上述した食料品にはあらゆる品目を含むが、次に中国の

食糧需給や食糧貿易に直接かわる穀物類について見てみよう。S3 (SITC3) のコード04は穀物及び同調整品である。S3の食料品コード0の次の枝分類の四番目に位置する品目である。穀物は多数の品目からなる食料品貿易のうち、中国の場合一五〇二〇%を占める主要な貿易財の一つである。

表4に見られるように、一九九〇年代、中国の食糧生産は大きく伸びるが、九五、九六年の二か年間を除き輸出も趨勢として増加基調を見せ、一方で輸入が大幅に減少するという、かつてない動きを見せた。この結果、穀物及び同調整品の対世界貿易特化係数は九五、九六年のマイナスからその後改善し、プラスに大きく転換した。そしてプラスの幅も傾向的に大きくなる様相を呈している。

九五、九六年の輸入増加の要因は小麦、とうもろこし、大豆が数量、金額ともに大きく増えたことによる。九〇年代になると中国の穀物国内生産量は増えはじめ、九六年にはイモ類を含めると初の五億トン達成する。大豆の生産量は九五年に前年に比べやや減少するが、小麦、とうもろこしとも増加している。それだけに九五、九六年の大量の穀物輸入増加には理由がはつきりしないところがある。そしてこうしたやや不透明な穀物類貿易が、中国の食糧不安説を助長する要因にもなっているように思う。

まず輸入量が増えたのはどのような穀物なのかを、FAO

『Food Balance Sheet』によつて見ると、小麦、とうもろこし、大豆、コメなどの重要品目である。つまり国内生産は増えていくのに、輸入もまた増えたのである。では国内生産量が増えた状態で、なぜ輸入を増やさなければならなかったのかといえ、九四年に大量の穀物輸出をしたために公的な在庫積み増しに不安が生まれたからであると考えられる。この不安が現実のものになるのは九五、九六年であり、穀物在庫増は九五年マイナス五三六万トン、九六年マイナス一〇〇七万トンに及んだ(九七年は二三〇万トンの在庫増に転換)。

しかしこの現象は消費量が増えたために起きたものではなく、輸出の増加による埋め合わせのためであった。表5の一九九四年に示すように、この年最大の穀物等類の輸出先は日本であった。この年、日本は未曾有の冷害のため水稻の減産が起きた。次いで韓国であるが、両国を合わせる輸出額の六〇%を超えていた。九四年までとくに九四年の大量の輸出増加が国内在庫の減少をもたらし、それを埋めるために九五、九六年の輸入増加が起き、対世界の貿易特化係数の悪化をもたらしたと考えられる。では中国は輸入してまで、なぜ輸出をするのだろうか。

中国の穀物貿易全体量をFAO統計に依拠して輸入、輸出に分けて見ると、九五、九六年はいうに及ばず二〇〇二年を除き、輸入量が輸出量を上回る。にもかかわらず表4で示すような現象、つまり貿易特化係数がプラスになるよ

うな現象が生じるのはなぜなのだろうか。つまり量で測った場合の差と、金額で測った場合の差が逆に現われるのはなぜかという問題である。その答えは、同じ品目でも安価な穀物類を輸入し、自国産のうち品質面で優れ高価に輸出できる穀物類を先進国に輸出している点に求められる。その結果、量的には輸入が輸出を上回る場合があるが、金額的には、貿易上の黒字が出る帳尻となる。穀物輸出で外貨を稼ぐ緊急性の有無ではなく、合理的な国際貿易取引を行っているにすぎないのである。この点は、中国の食料品貿易の国際化が内容的に熟したことも示している。

上述したように中国の穀物輸出増加が続く背景には、自給体制が出来上がりつつあることについての自信と、かなりの民間在庫または備蓄確保ができてきている事実があると思われる。事実二〇〇〇年以降は着実な在庫積み増しができるようになり、たとえば二〇〇一年には一八〇〇万トン、二〇〇二年には一七〇万トンの積み増しを行った。この点も考慮すると、この時期、中国の貿易は黒字基調を示してもおり、穀物を外貨獲得のための輸出財として位置付ける必要はなくなっていた。つまり、穀物は国内市場の形成後の国内余剰財として、海外市場に販売されるものになったといえると思う。

では穀物はどのような国・地域に輸出されるようになったのであろうか。表5は一九九二年から二〇〇二年までのその上位一一か国・地域までの状況を示すものである。表

3と同様、輸出入ともに、上位にランクされる国・地域の場合には網掛けしてある。まず輸出先から見ると、上位にランクされるのは日本、韓国、マレーシア、香港、コートジボアール、ロシア、北朝鮮、フィリピン、インドネシア、イラク、キューバなどであり、少なくとも九〇年代から二〇〇〇年代にかけて大きな変化はない。輸出先にはアジア諸国が多く含まれると同時に、アフリカ、中南米、欧州と広汎に及んでいるが、こうした状況は中国もまた穀物輸出面でメジャーな国に劣らぬ輸出体制を整えてきていたことも示している。

輸入先はというと、カナダ、アメリカ、タイ、オーストラリアなどが主要なところであり、他は数量的にも金額的にもそれほど重視すべきでもない。他の国・地域とはフランス、アルゼンチン、デンマーク、イギリス、ベトナム、日本、香港などであり、これらのうち、日本、香港、韓国などは先に見たように、輸出も上位にランクされている。大まかにではあるが、これら諸国との間には、一種の産業内貿易関係が成立しているといえる。ちなみに日本からの中国の輸入品目は配合調整飼料、播種用種子、小麦粉など、穀物加工品または種子などの国際特許品目である。

六 最近の穀物輸入増をどう見るか

二〇〇三年からややその兆候は認められていたが、二〇〇

〇四年になって、上述したような穀物輸出額の減少、輸入額の増加といった、貿易にやや変化が見られるようになってきた。そしてこれをもって、待っていたかのように中国の食糧危機を叫ぶ声も方々から出始めている。

中国農業部によると、二〇〇四年上半期（二月から六月）の中国の食料貿易（SITCと一致しない）は、前年同期に比べ輸入が大幅に増加した。輸出入合計は二四九億七〇〇万ドル、増加率は三五・五%であったが、うち輸入は一四三億五〇〇万ドル、増加率は六二・五%で、近年にない大幅な増加を記録した。前年同期七億六〇〇〇万ドルの赤字だった食料貿易は前年同期に比べ、二〇〇四年上半期は三七億三〇〇万ドルの赤字に落ち込んだのである。

主な品目別の動向を見ると、以下のとおりである。まず穀物全体の輸出は三三八万トン、前年同期比六二・四%減、輸入四一一万トン、同一八〇%増で、前年同期には七四九万トンの輸出超過であったものが、今年は逆に七四万トンの輸入超過となった。大幅な量的収支の落ち込みである。最近数年のコメ輸出は年約三〇〇万トン前後であり、中国の輸出品目の一つとなってきたが、今年上半年期の輸出は七五万トン、同三五%減、輸入三八万トン、同一一〇%増となっている。とうもろこしは輸出一六三万トン、同七六%減、輸入は微量である。小麦は輸出七〇万トン、同一九%減、輸入二七三万トン、同一六倍で輸入超過である。食用

油は輸入九二八万トンと大きいのが、輸出、輸入とも前年を下回っている。大豆は大部分輸入であり八九四万トンに達したが、同一二%減であった。ちなみに、中国はいまや世界一の大豆輸入国である。畜産物は輸入が増加する傾向を見せている品目であるが、輸出一三億七〇〇〇万ドル、同一二%増、輸入二〇億ドル、同二二%増であった。輸出の多くは世界一の生産を占める豚肉、家禽が占め、輸入は牛肉と家禽である。家禽は輸出し、輸入する、中国にとっての水産貿易品目の一つである。

この結果二〇〇四年度上半期の輸入増の主原因は、小麦が大幅な輸入増加となったにあることが判明した。さて中国が二〇〇四年度上半期に大幅な小麦の輸入を行った理由は次である。①作付け面積の減少が著しいこと、②一九九七年をピークに土地生産性が低下し始めたこと、③国民全体の消費量が増加していること、④国際市況が強含みで推移して買い付け動機が増したこと、などである。いくつかの点を補足しよう。

①中国の小麦作付面積のピークは一九九一年であるが、二〇〇三年は二三七〇万haでこの短い間に六三〇万ha減少した。日本の総耕地面積に匹敵する耕地が消滅したと同じである。②一ha当たり収穫量は九七年に四一〇〇kgであったがその後毎年徐々に低下、二〇〇三年には三八〇〇kgと三〇〇kg少ない収穫量となった。つまり、作付面積の減少

に加え土地生産性が低下したので、生産量の大幅な低下を招いたのである。生産量はピーク時一九九七年の一億二三二九万トンから徐々に低下、二〇〇三年には九〇〇〇万トン程度に落ち込んだ。実に三〇〇〇万トン強の減少である。③国全体の消費量は徐々に増加、現在は一億トンを超え、さらに増加傾向が認められる。消費の増加は中国の食事内容の変化によるものである。一言でいえば、パン食と乳製品の増加である。乳製品の生産力も付けてきているが、配合飼料比率は低く、牧草依存が一般的であり、乳質にはまだ問題が多い。しかし大規模飼育を行う近代的生産例が増えているので、今後は注目されなければならない。機会があれば、あらためて稿を起こしたい。

さて小麦の場合は、つまりは生産の減少、消費の増加という明確な現象が、輸入を増やす要因となっているということが出来る。そこで消費の増加の構造的側面を見てみよう。すると実は意外なことが分かる。国全体の消費量の増加は一人当たり消費量の増加を意味するのではなく、中国の場合、単なる人口増加によるものだということが分かる。FAO『Food Balance Sheet』によれば、一人当たり小麦消費量は一九九六年の八二kgをピークに減少に転じ、二〇〇二年には六五kgまで低下する。九六年の中国人一人当たりの摂取カロリーは二八〇九カロリーであるが、そのうち小麦によるものは五八五カロリー、二〇・八%であったが、二

〇〇二年になると摂取カロリー二九五一カロリーのうち小麦によるものは四七七カロリー、一六・一%まで低下してしまうのである。摂取カロリーが増加したなかで、小麦による摂取カロリーは量的に減少し、比率的にも低下した。

この背景には、複雑な要因が隠されている。それは飼料生産に回る小麦が減少したために、畜産物や乳製品を經由してカロリー摂取に回るオリジナル・カロリーベースで測った小麦のカロリー摂取量が減少し、直接食べるもの、たとえばパンへ移ったという点に秘密がある。したがって小麦のパン經由による消費量が多少増えたにしても、カロリー計算上は減少するかたちになって現れたのである。小麦の飼料生産に回る量は一九九四年三〇〇万トンであったが、二〇〇二年には三〇万トンへ減少するなど、その量は減少の一途をたどった。その一方で、とうもろこしや大豆、雑穀などが増え、その穴を埋めるような格好になってきた。これらの結果、作付面積の減少と生産性の低下、それに伴う輸入の増加の理由も見えてきたのではないかと思う。つまり、中国全体ではパン食などへの加工原料に回る良質小麦の生産移行が進みつつあり、質の重視が作付面積の減少と生産性の低下をもたらしている。しかし、それは小麦生産の構造転換を意味し、その転換期における混乱が生産量の不足を招き、輸入増加をもたらしたのではないかと思う。つまり、小麦輸入が増えたのは、単純に供給量が不足

したためではない。そしてこのような構造転換に伴う生産量変動や輸入の増加は、小麦に限らず、短期的かつ貿易を通じた利益獲得動機に基づくものとしては、今後も起きうると考えた方がいいであろう。

中国人の食生活の変化、その欧米化は今後急速に進むものと見られる。あまり飲まなかったビールは、男女ともいまや日本人やドイツ人並であるし、乳製品や牛肉類の消費も増えている。これら食生活の変化に伴って、中国の農産物生産の内容は大きく変わるであろうし、生産者のかたちや性格も変化するにちがいない。その変化の過程では、必要な農産物の過不足が起き、その調整のための貿易は今日以上に増え、重要な地位を占めるようになるはずである。

また、食生活の多様化は国内生産の限界を招き、輸入に頼らざるをえない機会も増える。食生活の近代化が食料品の多品種貿易を増やす道を開くことは、先進国が歩んだ例が示すとおりである。

中国がいま進めている食料品貿易のあり方は、みずからの食生活の変化を経過する過程で起きた一面と国内市場の形成以後の余剰食料輸出、という両面を抱えながら進んでいる性格を持つと理解できる。すでに、単純な国家的な食料不足という視角から中国を見ることはあまりにも古い、固定観念に染まった見方であり、排除されなければなら

ない。^⑦ 中国は当面 ASEAN 諸国と FTA から EPA の締結へと軸を移すが、その過程では、農産物貿易の関税問題が山場となる。しかし、基調としては相互に貿易促進的な方向へ動くことは間違いなく、協定の締結後の中国は少なくとも対 ASEAN では巨大な食料品輸出国であり輸入国として登場し直すことであろう。WTO 加盟を果たした現在、この動きは対世界に対しても同じベクトルを持つ以外にはないのではないか。

それでも、単純な過不足状態が貿易をもたらす主因だという見方に拘泥し、その域にとどまるかぎり、中国の内部で起きている農業・食料をめぐる本当の問題は見失われたままとなる。

注

(1) 中国は穀物在庫量を公表していない。というよりもむしろ、政府は正確な穀物在庫量を把握していないというべきだろう。FAO 統計を利用して、一九六一年から二〇〇二年までの約四〇年間にわたって、大豆、小麦、とうもろこし、コメの主要穀物在庫の年間変化量、つまり在庫の取り崩しと積み増しの変化を抽出してみると、二〇〇三年ごとに、取り崩しと積み増しが繰り返されていることがわかる。言い換えると、不作または輸出増加と、豊作または輸入が二〇〇三年ごとに繰り返されてきたと推測できる。このデー

夕自体、正確なものとは断定できないもので、数量的に詳しく分析してもあまり意味はないが、在庫変化の趨勢を知ることはできる。一定の条件付で、過去四〇年の年間変化量を合計するとマイナスとなる。しかも、食糧不足が蔓延していた五〇年代に、政府が公的な在庫ができたとは考えにくく、したがって公的在庫はほぼゼロとみなされる五〇年代に続く六〇年代初頭に、それを連年のように取り崩すことは不可能なはずであるが、統計上はそれが行われている。在庫がないのに、取り崩されていることになる。これはデータ自身に問題があるか、政府の把握以外に在庫があったことになる。実態は双方であろう。

言えることは、政府が把握し、管理している公的在庫は不明あるいはゼロに近いが、民間には相当量の隠し在庫が存在しているのではないかと、ということである。つまり政府が把握しているにしても、その在庫の範囲はきわめてせまい一部でしかなく、その大部分は農民の自由意志による自家備蓄であろうということである。

(2) 農産物の害虫被害も毎年非常に大きい。「中華糧網」(<http://www.cngrain.com>、二〇〇四年八月二四日付)によると、今年も黒龍江省の大豆畑はアブラムシの被害を受け、大きな減収にあったという。これはほんの一例である。

(3) 本稿は農産物貿易に焦点を絞ったものであるが、このような視角にもとづく検討例として、大西広・矢野剛編『中国経済の数量分析』世界思想社、二〇〇三年、一九一―二〇六頁がある。この例では、一般均衡論的手法により、国

際競争力上の優劣を計る視点を重視している。なお、次は同様の問題意識のもとで、産業全体を視野におき、精緻な分析を試みた例である。大橋英夫『経済の国際化』（現代中国経済5）名古屋大学出版会、二〇〇三年。

(4) 貿易データにはHS (Harmonized System) 世界関税協会)もあるが貿易財の分類区分が大きいため、本稿のような全体的な把握を基本とする場合には使いやすい反面、財を細かく系統的に分析するには難点がある。その違いについては、拙稿「水平分業化する中国とASEAN5か国貿易——財別長期貿易特化係数分析による考察——」（愛知大学国際問題研究所紀要 Vol.122、二〇〇四年三月）などを参照。貿易特化係数による計測の方法に似たものに産業内貿易指数（グルーベル・ロイド指数）がある。大西訓嗣・広瀬憲三・井川一宏編『国際経済論』有斐閣、二〇〇三年、第九章。なお計算式は次である。

$$\left[\frac{1 - |E_j - M_j|}{E_j + M_j} \right] \times 100$$

ただし、 J は特定の産業、 E_j は当該産業の輸出額、 M_j は同じく輸入額。

(5) D・O・ミッチェル他『世界食料の展望——二一世紀の予測』（農林統計協会、一九九八年、高橋五郎訳）、訳者あとがき「二二三―二四五頁参照。この点に関連した問題をやや詳しく論じている。

(6) 高橋五郎『生産農協への論理構造——土地所有のポスト・モダン——』日本経済評論社、一九九三年、五〇―六

表1 中国の食料品(コード0)における輸出入の世界順位

年次		輸 出			輸 入		
		金額 (100万ドル)	構成比	順位	金額 (100万ドル)	構成比	順位
1992	世界計	268,709	100.0		279,441	100.0	
	香港				5,616	2	11
1993	世界計	261,140	100.0		260,918	100.0	
	中国	8,309	3.1	10	3,146	1.1	17
1994	世界計	261,140	100.0		260,918	100.0	
	中国	8,399	3.2	10	2,206	0.8	24
1995	世界計	293,029	100.0		298,828	100.0	
	中国	10,015	3.4	7	3,137	1	20
1996	世界計	342,367	100.0		347,380	100.0	
	中国	9,954	2.9	13	6,131	1.8	12
1997	世界計	361,550	100.0		372,611	100.0	
	中国	10,231	2.8	14	5,671	1.5	14
1998	世界計	355,985	100.0		358,867	100.0	
	中国	11,075	3.1	11	4,304	1.2	17
1999	世界計	341,642	100.0		354,952	100.0	
	中国	10,613	3.1	9	3,787	1.1	20
2000	世界計	332,398	100.0		351,765	100.0	
	中国	10,458	3.1	9	3,620	1	20
2001	世界計	2,420	0.7	28	7,185	2	11
	中国	328,689	100.0		341,569	100.0	
2002	世界計	12,282	3.7	8	4,758	1.4	15
	中国	2,597	0.8	25	7,371	2.2	11
2003	世界計	337,986	100.0		348,409	100.0	
	中国	12,777	3.8	8	4,976	1.4	15
2004	世界計	2,297	0.7	28	6,977	2	12
	中国	339,472	100.0		356,698	100.0	
2005	世界計	14,621	4.3	8	5,238	1.5	15
	中国	2,144	0.6	27	6,882	1.9	14

出所：SITC. Rev. 3から加工作成。

八頁参照。
 (7) 本稿で指摘した固定観念に古い見方が、学会では依然として主流を占めている状態である。それ自体は、中国農業経済研究の現下の水準を物語っているが、中国の田野を歩き、一定の尺度をもって、そこに見られる水田や、畑、

果樹園、畜舎といったさまざまな様子を直にながめ、田畑の景観や土地の使い方を計り、土壌や餌に指を突っ込んで掻き回して匂いを嗅いでみれば、その行方の判断はかなり付く。

表2 中国の食料品(コード0)における対世界貿易特化係数
(ドル)

	輸出額	輸入額	貿易収支	貿易特化係数
1992	8,309,268,480	3,146,196,992	5,163,071,488	0.4507
1993	8,399,414,272	2,206,255,360	6,193,158,912	0.5839
1994	10,015,398,912	3,137,292,544	6,878,106,368	0.5229
1995	9,954,385,920	6,131,496,448	3,822,889,472	0.2377
1996	10,231,198,720	5,671,357,952	4,559,840,768	0.2867
1997	11,074,996,224	4,304,249,344	6,770,746,880	0.4403
1998	10,612,543,488	3,787,472,640	6,825,070,848	0.4740
1999	10,458,221,568	3,619,663,104	6,838,558,464	0.4858
2000	12,281,710,592	4,758,315,520	7,523,395,072	0.4415
2001	12,777,197,568	4,975,699,968	7,801,497,600	0.4394
2002	14,620,738,560	5,237,780,480	9,382,958,080	0.4725

出所：表1と同じ。

表3 中国の食料品(コード0)における貿易相手(上位10か国・地域)

1992年			
輸出先	輸出額(ドル)	輸入先	輸入額(ドル)
World	8,309,268,480	World	3,146,196,992
Japan	2,236,079,104	Canada	908,404,864
China, Hong Kong SAR	1,585,691,136	USA	597,673,600
Rep. of Korea	675,740,224	Peru	292,037,952
Russian Federation	575,070,784	France	194,691,248
USA	471,072,256	Cuba	181,443,520
Germany	214,980,784	Australia	160,407,360
Singapore	214,426,240	Thailand	107,627,192
Malaysia	209,972,544	China, Hong Kong SAR	106,379,936
Kazakhstan	139,757,408	Russian Federation	96,360,696
Italy	130,725,592	Japan	66,989,852

1993年			
輸出先	輸出額(ドル)	輸入先	輸入額(ドル)
World	8,399,414,272	World	2,206,255,360
Japan	2,478,618,624	USA	470,142,912
China, Hong Kong SAR	1,285,629,184	Canada	453,229,248
Russian Federation	881,263,616	Australia	237,301,232
Rep. of Korea	619,673,408	Peru	173,530,256
USA	426,791,072	China, Hong Kong SAR	100,740,320
Germany	245,080,720	Thailand	85,128,864
Singapore	200,598,656	Russian Federation	83,526,872
Malaysia	185,989,360	Japan	81,607,576
Dem. People's Rep. of Korea	135,311,584	Cuba	64,566,712
Italy	113,971,776	Argentina	46,314,560

1994年

輸出先	輸出額(ドル)	輸入先	輸入額(ドル)
World	10,015,398,912	World	3,137,292,544
Japan	3,789,006,848	Australia	546,362,944
China, Hong Kong SAR	1,802,758,656	Canada	531,362,816
Rep. of Korea	750,284,864	USA	478,411,040
USA	468,796,000	Thailand	275,301,568
Russian Federation	402,990,816	Peru	234,611,472
Malaysia	275,997,568	Japan	184,932,160
Singapore	219,521,200	Cuba	113,771,184
Germany	213,874,592	Russian Federation	106,938,240
Indonesia	175,787,648	China, Hong Kong SAR	100,986,352
India	152,902,528	Viet Nam	64,517,452

1995年

輸出先	輸出額(ドル)	輸入先	輸入額(ドル)
World	9,954,385,920	World	6,131,496,448
Japan	3,978,891,264	USA	1,731,952,000
China, Hong Kong SAR	1,972,733,696	Canada	1,001,273,344
USA	537,873,472	Thailand	739,717,248
Russian Federation	455,209,440	France	369,067,680
Rep. of Korea	413,037,760	Peru	279,218,848
Germany	273,566,560	Australia	261,695,168
Singapore	256,790,080	Cuba	212,870,448
Indonesia	160,764,880	Japan	202,503,920
Malaysia	139,137,344	Viet Nam	130,892,920
China, Macao SAR	135,197,344	Russian Federation	128,640,136

1996年

輸出先	輸出額(ドル)	輸入先	輸入額(ドル)
World	10,231,198,720	World	5,671,357,952
Japan	4,377,649,152	Canada	957,294,592
China, Hong Kong SAR	1,615,484,544	USA	922,559,488
Rep. of Korea	592,561,856	Australia	884,044,224
USA	557,661,184	Thailand	439,175,264
Russian Federation	442,075,552	Peru	390,197,376
Germany	271,187,456	Brazil	282,253,312
Singapore	239,148,720	Argentina	223,819,056
Netherlands	181,436,192	Russian Federation	217,870,656
Dem. People's Rep. of Korea	148,807,696	India	180,437,344
Saudi Arabia	122,829,712	Japan	170,999,808

1997年

輸出先	輸出額(ドル)	輸入先	輸入額(ドル)
World	11,074,996,224	World	4,304,249,344
Japan	4,157,017,088	Peru	481,154,816
China, Hong Kong SAR	1,698,458,368	USA	471,368,256
Rep. of Korea	1,065,193,088	Brazil	437,263,840
USA	622,980,288	Canada	422,584,256
Russian Federation	347,128,224	Australia	409,897,728
Malaysia	299,329,216	Argentina	334,379,872
Singapore	255,401,424	Thailand	296,431,552
Germany	231,025,744	Russian Federation	218,086,144
Dem. People's Rep. of Korea	217,791,520	India	217,516,688
Netherlands	175,110,576	Japan	166,523,424

1998年

輸出先	輸出額(ドル)	輸入先	輸入額(ドル)
World	10,612,543,488	World	3,787,472,640
Japan	3,922,367,232	USA	629,645,056
China, Hong Kong SAR	1,510,372,480	Russian Federation	329,184,064
Rep. of Korea	679,581,248	Canada	317,112,992
USA	646,513,408	Brazil	303,477,312
Indonesia	404,114,016	Argentina	248,505,424
Philippines	386,445,088	India	247,239,680
Germany	326,030,688	Australia	236,970,960
Russian Federation	297,569,120	Thailand	224,659,232
Malaysia	246,123,264	Japan	171,745,792
Singapore	175,340,352	Peru	139,591,072

1999年

輸出先	輸出額(ドル)	輸入先	輸入額(ドル)
World	10,458,221,568	World	3,619,663,104
Japan	4,266,095,616	USA	676,146,432
China, Hong Kong SAR	1,239,856,384	Russian Federation	329,885,856
Rep. of Korea	802,562,496	Australia	296,765,088
USA	697,206,592	Japan	274,772,416
Malaysia	307,171,520	Thailand	212,066,368
Indonesia	264,762,576	Peru	187,108,288
Germany	254,369,392	Canada	153,284,160
Netherlands	184,806,912	New Zealand	121,996,808
Singapore	168,414,064	France	121,226,192
Russian Federation	140,466,480	Indonesia	109,669,672

2000年

輸出先	輸出額(ドル)	輸入先	輸入額(ドル)
World	12,281,710,592	World	4,758,315,520
Japan	4,843,898,880	USA	873,136,256
Rep. of Korea	1,381,816,064	Russian Federation	422,389,312
China, Hong Kong SAR	1,310,048,640	Peru	396,994,080
USA	885,440,384	Canada	315,909,024
Malaysia	376,870,240	Australia	290,001,952
Germany	289,819,648	Thailand	282,408,832
Indonesia	271,916,736	Japan	248,893,728
Netherlands	214,019,696	New Zealand	180,095,616
Singapore	167,128,080	France	155,982,384
Spain	148,109,856	India	124,954,848

2001年

輸出先	輸出額(ドル)	輸入先	輸入額(ドル)
World	12,777,197,568	World	4,975,699,968
Japan	5,158,428,672	USA	947,927,488
Rep. of Korea	1,366,285,056	Russian Federation	548,133,888
China, Hong Kong SAR	1,292,885,376	Thailand	467,063,456
USA	958,837,760	Australia	387,759,840
Germany	360,301,664	Canada	321,089,344
Malaysia	332,612,480	Peru	296,385,024
Netherlands	243,480,992	Japan	196,332,048
Indonesia	196,648,464	New Zealand	189,709,808
Russian Federation	192,518,992	France	123,435,280
Singapore	178,049,440	India	106,354,064

2002年

輸出先	輸出額(ドル)	輸入先	輸入額(ドル)
World	14,620,738,560	World	5,237,780,480
Japan	5,210,031,616	USA	1,036,079,872
Rep. of Korea	1,783,943,552	Russian Federation	671,616,512
China, Hong Kong SAR	1,422,576,384	Australia	440,632,768
USA	1,335,773,440	Peru	407,574,592
Malaysia	525,427,264	Thailand	346,157,664
Indonesia	409,610,624	Canada	262,565,552
Russian Federation	379,869,888	New Zealand	238,754,832
Germany	361,158,816	Japan	187,263,440
Singapore	206,437,792	Chile	155,378,480
Netherlands	201,356,688	Dem. People's Rep. of Korea	148,791,440

出所：表1と同じ。

表4 中国の穀物及び同調整品における対世界貿易特化係数
(ドル)

	輸出額	輸入額	貿易特化係数
1992	1,610,074,880	1,717,788,160	-0.032
1993	1,600,706,944	1,026,926,528	0.218
1994	1,687,119,360	1,321,437,184	0.122
1995	285,330,464	3,629,389,312	-0.854
1996	525,364,352	2,595,636,224	-0.663
1997	1,501,825,152	934,170,304	0.233
1998	1,653,512,320	727,935,424	0.389
1999	1,275,604,864	542,445,440	0.403
2000	1,816,874,368	613,260,992	0.495
2001	1,236,747,136	654,918,528	0.308
2002	1,876,638,208	531,816,512	0.558

出所：表1と同じ。

表5 中国の穀物及び同調整品における貿易相手（上位11か国・地域）

1992年

輸出先	輸出額(ドル)	輸入先	輸入額(ドル)
Rep. of Korea	507,062,912	Canada	895,558,080
Japan	306,781,664	USA	450,058,496
Malaysia	160,002,128	France	181,085,120
Russian Federation	87,142,256	Australia	101,375,856
Dem. People's Rep. of Korea	81,708,232	Thailand	37,499,904
China, Hong Kong SAR	79,364,504	China, Hong Kong SAR	15,931,385
Thailand	44,607,420	Denmark	12,532,380
Iran	42,987,528	Japan	7,963,852
Cuba	33,329,768	Sweden	3,595,029
Libya	25,995,514	New Zealand	2,875,014
Singapore	21,294,890	Poland	2,458,577

1993年

輸出先	輸出額(ドル)	輸入先	輸入額(ドル)
Rep. of Korea	430,096,768	Canada	437,229,088
Japan	246,398,832	USA	311,396,608
Russian Federation	185,538,160	Australia	171,484,064
Malaysia	129,865,744	Thailand	34,515,204
Dem. People's Rep. of Korea	103,633,240	Denmark	18,180,608
China, Hong Kong SAR	65,298,724	China, Hong Kong SAR	16,968,808
Iran	54,458,604	Argentina	11,799,046
Cuba	35,971,540	Finland	5,260,520
Indonesia	31,580,102	France	5,256,556
Côte d'Ivoire	31,273,624	Bulgaria	3,761,305
Romania	27,387,434	Japan	3,643,213

1994年

輸出先	輸出額(ドル)	輸入先	輸入額(ドル)
Japan	685,955,648	Canada	509,043,968
Rep. of Korea	390,487,616	Australia	349,085,920
Malaysia	151,658,032	USA	285,299,040
Indonesia	86,624,008	Thailand	110,827,264
China, Hong Kong SAR	64,039,456	Viet Nam	26,560,846
Russian Federation	51,386,112	China, Hong Kong SAR	10,580,807
Dem. People's Rep. of Korea	31,294,356	Malaysia	6,687,160
Iran	18,220,684	Japan	4,476,248
Viet Nam	18,206,586	Other Asia, nes	4,000,809
Togo	13,402,630	Turkey	3,600,000
Libya	11,359,697	New Zealand	3,511,580

1995年

輸出先	輸出額(ドル)	輸入先	輸入額(ドル)
China, Hong Kong SAR	61,457,296	USA	1,492,887,552
Japan	58,254,736	Canada	959,987,264
Rep. of Korea	32,233,212	France	350,922,624
Dem. People's Rep. of Korea	28,595,860	Thailand	322,934,016
Viet Nam	20,378,938	Australia	110,024,536
Mongolia	11,171,575	Viet Nam	102,188,824
Russian Federation	9,748,515	Argentina	70,601,056
USA	8,863,262	Denmark	52,987,388
Indonesia	8,011,113	Germany	50,614,676
Philippines	7,970,835	United Kingdom	41,182,384
Malaysia	7,859,922	Netherlands	12,891,036

1996年

輸出先	輸出額(ドル)	輸入先	輸入額(ドル)
Dem. People's Rep. of Korea	129,399,216	Canada	895,473,920
Japan	90,604,784	Australia	745,540,480
China, Hong Kong SAR	76,766,208	USA	567,062,144
Rep. of Korea	66,526,044	Thailand	242,552,464
Libya	27,384,746	France	49,551,792
Mongolia	26,577,908	Viet Nam	36,145,112
Russian Federation	14,523,235	Argentina	14,543,748
Viet Nam	14,236,584	Japan	7,244,216
USA	13,055,228	China, Hong Kong SAR	5,852,096
Philippines	9,710,459	India	5,797,246
Netherlands	6,660,471	So. African Customs Union	5,130,917

1997年

輸出先	輸出額(ドル)	輸入先	輸入額(ドル)
Rep. of Korea	498,601,536	Canada	359,375,072
Dem. People's Rep. of Korea	194,753,856	Australia	315,434,304
Malaysia	168,794,592	Thailand	146,218,448
Japan	106,808,952	USA	46,430,008
China, Hong Kong SAR	94,941,288	Denmark	12,730,279
Indonesia	93,922,960	United Kingdom	10,613,616
Philippines	80,419,568	Japan	6,014,994
Iraq	40,936,328	Nepal	5,358,191
Libya	25,486,020	Spain	4,939,076
Russian Federation	22,909,468	France	4,508,527
Mongolia	20,553,988	Argentina	4,384,676

1998年

輸出先	輸出額(ドル)	輸入先	輸入額(ドル)
Rep. of Korea	328,248,736	Canada	260,483,536
Philippines	326,652,544	Australia	172,280,560
Indonesia	318,037,280	Thailand	123,609,856
Malaysia	146,625,360	USA	88,916,744
Japan	111,104,432	Denmark	29,525,806
China, Hong Kong SAR	78,450,240	France	18,597,572
Dem. People's Rep. of Korea	76,894,400	Switzerland	5,035,700
Côte d'Ivoire	41,706,564	Japan	4,510,523
Cuba	33,573,108	Indonesia	3,870,565
Iraq	29,123,696	Nepal	3,403,603
Iran	28,213,980	United Kingdom	3,335,818

1999年

輸出先	輸出額(ドル)	輸入先	輸入額(ドル)
Indonesia	200,712,176	Australia	211,782,432
Malaysia	180,595,296	Thailand	85,545,464
Rep. of Korea	177,966,128	Canada	76,322,096
Japan	92,638,296	USA	41,991,756
Côte d'Ivoire	85,394,288	Denmark	40,045,732
China, Hong Kong SAR	76,827,104	France	35,633,044
Russian Federation	56,832,880	United Kingdom	19,773,936
Dem. People's Rep. of Korea	53,843,600	Japan	6,663,808
Cuba	51,742,968	Spain	4,258,450
Philippines	50,127,912	Nepal	4,226,290
Iraq	30,367,500	Rep. of Korea	3,742,349

2000年

輸出先	輸出額(ドル)	輸入先	輸入額(ドル)
Rep. of Korea	651,434,432	Australia	175,984,816
Malaysia	234,913,280	Canada	170,070,352
Indonesia	181,862,016	Thailand	116,296,048
Côte d'Ivoire	130,432,144	France	75,202,448
Japan	88,561,616	USA	34,100,640
China, Hong Kong SAR	75,916,792	Denmark	15,851,413
Russian Federation	58,733,380	Japan	6,220,355
Philippines	42,342,468	Rep. of Korea	4,520,405
Dem. People's Rep. of Korea	41,427,740	United Kingdom	4,086,279
Cuba	41,308,792	China, Hong Kong SAR	2,612,480
Iraq	38,262,788	Nepal	2,165,033

2001年

輸出先	輸出額(ドル)	輸入先	輸入額(ドル)
Rep. of Korea	389,785,760	Australia	222,703,360
Malaysia	151,733,792	Canada	177,949,216
Japan	132,487,416	Thailand	109,646,872
Côte d'Ivoire	125,325,200	USA	56,520,160
China, Hong Kong SAR	87,704,376	France	55,913,088
Dem. People's Rep. of Korea	73,882,352	Japan	5,190,883
Indonesia	57,323,368	United Kingdom	4,629,101
Cuba	29,648,740	Rep. of Korea	4,438,763
Iraq	20,987,470	China, Hong Kong SAR	3,147,463
Russian Federation	19,530,204	Belgium	2,607,125
Viet Nam	18,054,216	Free Zones	2,436,931

2002年

輸出先	輸出額(ドル)	輸入先	輸入額(ドル)
Rep. of Korea	707,133,184	Australia	244,387,376
Malaysia	254,420,736	Canada	102,885,240
Indonesia	209,204,720	Thailand	80,560,400
Japan	118,131,544	USA	35,473,576
Côte d'Ivoire	103,902,336	France	25,118,424
China, Hong Kong SAR	93,839,128	Belgium	9,887,319
Russian Federation	55,996,988	Denmark	7,395,684
Cuba	44,974,360	Japan	6,362,907
Viet Nam	43,667,628	China, Hong Kong SAR	4,384,891
Dem. People's Rep. of Korea	40,208,988	United Kingdom	3,592,587
South Africa	22,047,584	Rep. of Korea	3,250,403
Philippines	18,641,672	Malaysia	1,412,108

出所：表1と同じ。